

NISHIBORI Rehabilitation



リハビリテーション
地域に根ざした



西堀病院のリハ

地域に根ざしたリハビリテーション Community-based Rehabilitation

当法人の基本理念は「癒す人と癒される人の和」です。私たちは、患者さま・利用者さま・その家族の方々との「和」をもっとも大切なものと思っています。「医療・福祉を提供する側」と「医療・福祉を受ける側」が信頼という輪（和）でしっかりと結ばれることで理想の医療・福祉を提供できると考えています。

西堀病院のリハビリテーションは、地域包括ケアの中核を担うべく、患者さま、対象者さまが、住み慣れた場所で充実した生活が送れるようリハビリテーションの知識・技術・マインドをもって地域社会に貢献することを目指しています。

当院リハビリテーション課は院内リハビリテーション部門（回復期リハ病棟、一般病棟、障害者病棟の入院患者さまを対象）と

在宅リハビリテーション部門（通所リハビリと訪問リハビリ）が連携し、回復期から生活期まで切れ目のないリハビリテーションの提供を目指しています。

地域包括ケアを実現するためには、医療保険・介護保険でのリハビリテーションの提供だけでなく、地域住民の集いの場にはリハビリテーション専門職が積極的に関わることが必要といわれています。当院では課内に「地域包括ケア推進委員会」を設置し、法人内に2か所ある函館市地域包括支援センターと連携しながら、地域リハビリテーション活動支援事業にも力を入れています。

病棟編成と主な対象疾患

- 回復期リハ病棟 60床：脳血管疾患、運動器疾患
- 一般病棟 48床（うち地域包括ケア病床18床）：呼吸器疾患、心疾患、上肢・下腿の整形疾患など
- 障害者病棟 60床：神経難病、重度意識障害など

入院直後の家屋調査

入院早期から生活環境を考慮したリハビリテーションを提供するため、また、患者さまの趣味や興味、「大切にされていること」などを知り、ADLの改善のみに終始することのないリハビリテーションの提供を心掛けています。

入院直後の家屋調査では、ご家族ともじっくり話しができますので、より具体的な目標の設定が可能となります。



院外での積極的なリハビリ

円滑な自宅復帰・社会復帰のためには、より退院後の生活に近い環境でのリハビリテーションが重要であり、当院でも病院外でのリハビリテーションを積極的に行っています。

公共交通機関（バス）の乗車練習や近隣のスーパーでの買い物練習はもちろん、職場に行って復職へ向けた練習を行うこともあります。





西堀病院リハ課の教育プログラム クリニカル・ラダーを導入

当院のリハビリテーション課は、急性期病院、診療所、福祉施設等との連携を図り、回復期リハビリテーションを中心に切れ目のないサービスを通し、在宅復帰、社会復帰の支援を役割としています。

その中で、セラピストに求められる能力も多様化しており、専門職として充実したサービスを提供するため、一貫した教育システムの構築が必要となってきました。

当院のセラピストが、その役割を果たすために必要な基礎能力は以下の通りです。

1. 社会人としての礼節や基本的姿勢
2. 臨床実践能力
3. 他職種と連携する能力
4. 地域貢献活動を遂行できる能力
5. リスクマネジメント

これらの基礎を5年を目安に修得していただき、その後は、それぞれのライフスタイルや将来のビジョンに合わせ、熟練コース、高度専門コース、マネジメントコースに進み、キャリアアップを目指していきます。



退院後訪問調査

これまでは退院した患者さまがその後「元気に生活されているのだろうか?」「転倒や状態悪化などされていないだろうか?」など、知る機会はほとんど無く、その結果として、自分たちが提供してきたリハビリテーションが良かったのか、悪かったのかフィードバックを得ることができませんでした。

そこで退院後1ヶ月に退院先を訪問させていただき取り組みを数年前より行っています。



各療法からのメッセージ



理学療法士

理学療法では、「責任感ある理学療法士の育成」、「自主性を重んじた教育の実践」を教育理念としています。

経験年数の浅いスタッフが多いですが、指導する側と指導される側、お互いが学び、スタッフ全員のスキルアップを図っていきたく考えています。

患者さんと真剣に向き合いたい方、地域住民の健康増進に興味がある方、ぜひ、当院で一緒に働きませんか?



作業療法士

皆さんは、「理学療法と作業療法の違い」を明確に説明できますか?

私たちは、作業療法士として、患者さまの「大切な作業」に目を向け、機能訓練に終始することのない作業療法を提供していきたいと考えています。

回復期から地域・在宅での関わり、予防事業などに興味のある方、ぜひ西堀病院で一緒に働きましょう!!



言語聴覚士

当院では、通所リハ・訪問リハにもSTを配置し、回復期から在宅まで幅広く介入しています。STの対象は主に失語症、高次脳機能障害、嚥下障害であり、医師、看護師、PT、管理栄養士、歯科衛生士らと協力しながら短期間の入院で摂食嚥下機能を評価する「摂食機能評価入院」も行っています。

経験豊富なスタッフも複数おり、困った時にはすぐに相談できます。

興味のある方は、お気軽にご連絡ください!



歯科衛生士

西堀病院のリハビリテーション課には、2名の歯科衛生士が在籍しています。

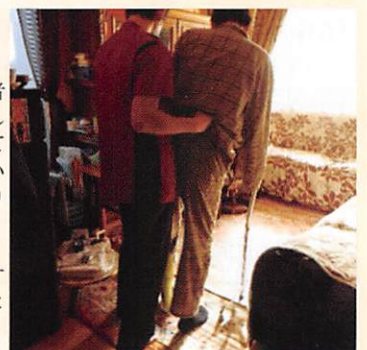
リハビリテーション病院に勤務する歯科衛生士はまだ少ないですが、同じ函館市内のリハビリテーション病院に勤務する歯科衛生士と情報交換しながら日々奮闘しています。

院内ではSTや看護師と連携することが多いですが、PTやOTとの連携も図り、口腔環境の改善が患者さんの生活の質の向上に繋がればと考えています。

入院中から訪問リハまで 同一セラピストがリハを提供

自宅への退院を予定されている患者さまに対し、少しでも安心して退院していただけるよう、入院中に担当していたセラピストが、そのまま訪問リハビリも担当させていただくという取り組みを行っています。

まだ実施件数は多くありませんが、患者様やご家族からの希望はありますので、積極的に取り組んでいきたいと思っています。





休みが多く、働きやすい！！

毎月、土曜、日曜、祝日の日数分の休みが付与されるほか、夏季休暇2日、年末年始休暇5日、開院記念休暇1日があり、年間の休日数は124日（2020年度実績）と充実しています。その他、有給休暇も取得しやすい環境づくりを心掛けており、法人全体でワークライフバランスの推進に力を入れています。

まとまった休みも取りやすいため、帰省や旅行などプライベートの時間を大切に、仕事にも励んでほしいと思っています。



学会発表・大学院進学をサポート！！

リハビリテーション課内に「研究サポート室」を設置し、学会発表したいスタッフに対し、研究計画に対する助言や予演会の開催などサポートします。「西堀学会」という院内での報告の場を年1回設け、その演題を翌年に各種団体の学会で発表する流れもあります。全国レベル、全道レベル、地区レベルの学会を合わせ毎年10演題以上発表しています。

働きながら大学院に通いたいスタッフに対しては奨学金制度を設けており、これまで3名のスタッフが弘前大学大学院を卒業しています。



企業主導型保育所
なかもち
西堀保育園

充実した子育て支援！！

出産する女性スタッフに対しては、産前6週間、産後8週間の特別休暇が取得でき、出産から1年間育児休暇の取得や時短勤務も可能です。

また、2019年4月には、西堀病院が設置主体となりしほり中道保育園がOPENしました。病院敷地内に保育園があるので、お父さんの急な体調不良にもすぐに対応することができ、安心して働けます。



スポーツ大好き！！

西堀病院にはサッカー、バレーボール、バドミントン、マラソン、ゴルフなど様々なサークルがあり、業務終了後や休日に活動しています（野球部は人数が集まらず、現在、休部中です…）。汗をかいたあとのビールは最高ですね！

社会医療法人 仁生会 西堀病院

〒041-8555 北海道函館市中道2丁目6番11号

Tel 0138-52-1531 / Fax 0138-52-1532

施設見学・就職に関するお問い合わせは、リハビリテーション課伊丸岡（いまるおか）までご連絡ください。

ホームページはこちら

西堀病院 函館

検索



<https://www.nishibori-hosp.or.jp/>

